資料３－４

第2回医療・病床懇話会の概要（豊能二次医療圏）

1　将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）・病床機能分化の方向性等について

〇将来のあるべき姿の到達度を測定する指標として、「将来にむけて回復期への転換が必要な病床」を設定し、今後、地域医療構想の進捗状況をモニタリングしていくことについて、認識の共有を図った。

〇特定機能病院が 2 病院とも吹田市にあり、高度急性期と報告されている病床が同市に集中している。大阪府外や他医療圏からの流入があることも踏まえ、医療圏内需要だけを見るのではなく、大阪府全体で検討する必要がある。

〇大阪アプローチでは病床の必要量を割合で考えているが、割合ではなく絶対数で考える必要があるのではないか。

〇病床機能を割合だけで議論を進めると、高齢者救急を担う病院が不足する恐れがあるのではないか。今後、アドバンス・ケア・プランニングや在宅での看取り、介護の問題を含めて議論していく必要がある。

〇病床機能分化については、高度急性期と急性期の定義を明確にしていくことが必要ではないか

〇市立川西病院は、特に豊能町、能勢町から受診する患者も多いが、2020 年に移転予定で両町からのアクセスは変化すると予想される。大阪府と兵庫県が相互に流出入する地域であるので、市立池田病院、箕面市立病院、市立川西病院で協力する必要がある。

2　病院の将来プラン等※について

（１）保健医療協議会においてプラン等の内容について説明を希望する病院

特になし

（２）その他、病院のプラン等に対する意見・質問等

〇大阪市立弘済院附属病院

住吉市民病院跡地への移転計画について、二次医療圏を越えて移転することができるのか。大阪市は病床が不足しているのか、と質問があり、大阪府全医療圏について病床過剰地域のため、基本的には、増床、圏域を超えた病床の移動は認められない。二次医療圏を超えた病床移動には、大阪府医療審議会の協議や厚生労働省の同意が必要になると考えられる旨説明。

※公的医療機関等 2025 プラン、新公立病院改革プランにかかる補足調査、将来に向けた病院のプランに関する調査